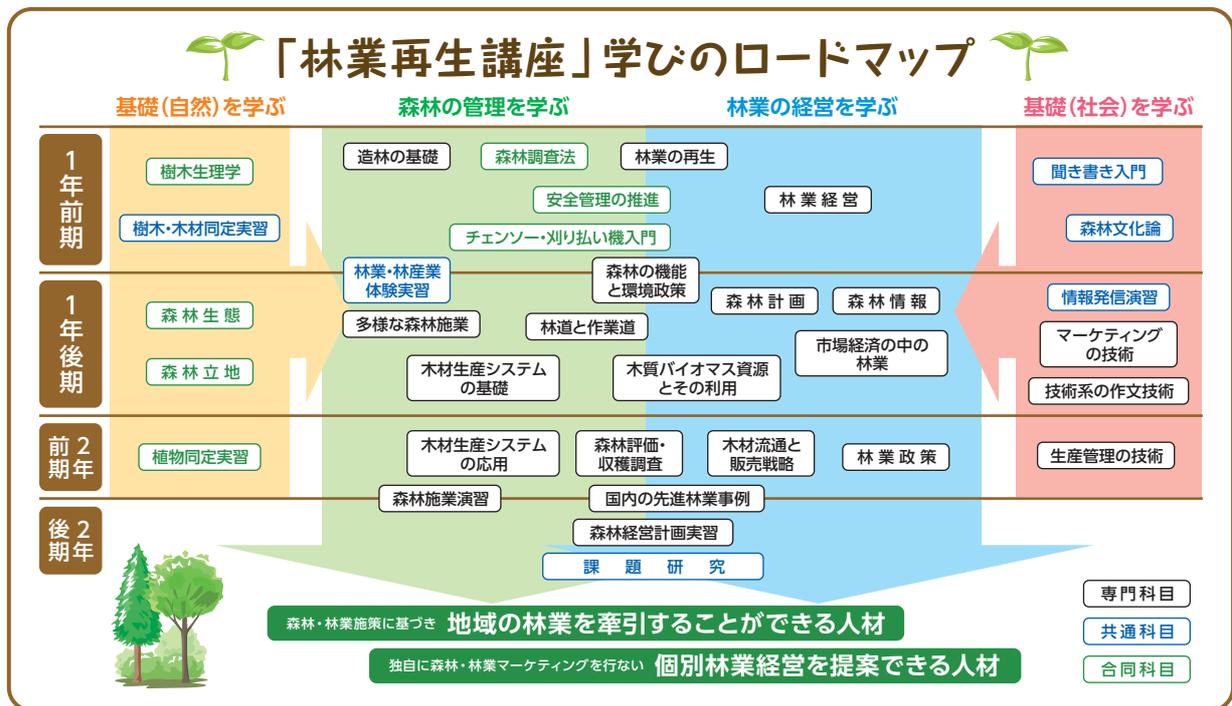


『林業再生講座』いよいよ開講

岐阜県立森林文化アカデミー
横井 秀一



●『林業再生講座』始動

森林文化アカデミーの新課程が、この4月から動き始めました。今回の改革によってクリエイター科に誕生した林業再生講座のことは、昨年12月の本誌(687号)に少し書かせていただきました。ただ、当時は新しいカリキュラムがまだ固まっていなかったため、その紹介ができませんでした。

どんなカリキュラムでも、それを見れば、教育の方針や育てたい人材の目標などが見え、さらには教育にかける想いまでもが見える(当然、良くも悪くも)と思います。前回の記事でカリキュラムを紹介できなかったのが残念でなりません。同時に、カリキュラムを知らされないままアカデミーを受験し、入学してくださった学生たちに対して、申し訳ないという思いでいっぱいです。そんなことから、今回は林業再生講座のカリキュラムを紹介させていただきます。

●林業再生講座のカリキュラム

図に、林業再生講座における科目を示しました。ここで、「専門科目」とは林業再生講座だけに向けた科目です。「共通科目」は全講座に向けた科目(図に示していない科目もあります)、「合同科目」は林業再生講座と他の講座との合同の科目です。縦に履修の流れ(開講時期)、横の位置関係で学びの目的(学習分野)がわかるように、科目を配置しました。簡単な「学びのロードマップ」になっていると思って、見てください。

入口に想定しているのは、「林業」や「森林」について学んだり経験したりしたことはないが、それに関する情

熱を持った新生です。これまでにクリエイター科に入学した学生のほとんどが、そうだったからです。出口には、講座の人材目標を掲げました。それらを繋ぐ大きな道に、車線が2つ。講座の専門科目の多くは、ここに配置されています。向かって左側の車線は「森林の管理を学ぶ科目」で、ここでは森林の取り扱い方を勉強します。その学びのための基礎的な科目が、「基礎(自然)を学ぶ科目」です。向かって右側の車線は「林業の経営を学ぶ科目」で、ここでは林業経営に必要な知識や考え方を学びます。「基礎(社会)を学ぶ科目」は、情報の収集・発信やその他の関連科目です。これら科目の多くは、新しい科目です。それに加えて、2年生時にはこれまでどおりの課題研究もあります。各自が設定した課題に取り組むことで、それぞれ最も関心のある分野について、学びを深めていきます。

林業再生講座で準備した全部の科目を履修しなくても、卒業に必要な時間数を履修すれば、卒業要件は満たします。将来の姿を決め、最短距離を走ることも可能です。ただ、そのためのロードマップは示していません。科目を設定したわれわれ教員としては、できるだけ多くの科目を履修してほしいと思っているからです。苦手な分野や興味が湧かない分野を極めることを求めているわけではありません。そうした分野のことも知っておいてほしいと願っているだけです。

これからの林業界に必要な広い視野・多角的な視点を持った人材を育てたいとの考えで設定したカリキュラム、これがアカデミーの新生『林業再生講座』の売りだと自負しています。

●詳しい内容が知りたい方は

TEL(0575)35-2525 森林文化アカデミー まで